

# 第5回 栃木県総合計画懇談会

## 会議結果の概要

平成23年1月21日

栃木県総合政策部総合政策課

## ○第5回栃木県総合計画懇談会の開催結果

- 1 日 時 平成23年1月21日（金）14:00～15:30
- 2 場 所 栃木県公館大会議室
- 3 出席者 須賀会長、茅野会長代理、相田委員、青木委員、青田委員、石田委員、上野委員、尾形委員、奥村委員、小池委員、古口委員、粉川委員、小林委員、笹崎委員、佐藤 栄委員、塩谷委員、螺良委員、當麻委員、中田委員、西巻委員、野村委員、早川委員、藤井委員、黛委員、宮下委員、築委員、山岡委員、和田委員、渡邊委員

〔県〕福田知事、須藤副知事、麻生副知事、各部局長ほか

### 4 概 要

#### (1) 知事あいさつ

第5回栃木県総合計画懇談会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

皆様方には日ごろから県勢の発展に御支援と御協力をいただき、また、本日は、年の初めの大変お忙しい中、当懇談会に御出席をいただき、心から感謝を申し上げます。

さて、「新とちぎ元気プラン」については、これまでほぼ2年間にわたり、当懇談会はもとより県民アンケートや市町村長の意向調査、各種広聴事業やパブリック・コメントなど、様々な形で県民の皆様方から御意見を伺って参った。特に、懇談会委員の皆様には、「人づくり」そして「安心」「成長」「環境」の各部会において、今後の県政の課題や重点的取組の展開方向などについて、県民としての視点、あるいは専門的見地から貴重な御意見・御提言をいただいて参った。改めて感謝を申し上げます。

私は、「元気度日本一の栃木県」を実現するためには、県民の皆様はもとより、NPOや企業、行政など、明日のとちぎづくりを担う多様な主体が連携、協力し、知恵を出し、ともに汗を流すことが何より重要であると考えている。そのため、このプランでは「協働」の取組をさらに一步前進させ、「地域をともに創る」という考え方に立ってとちぎづくりを進めていくこととした。懇談会委員の皆様にも、これまで以上に「協働」の実践家として、元気なとちぎづくりに御協力いただきたい。

本日はいよいよ「新とちぎ元気プラン」の最終案について御説明したいと考えているので、委員の皆様には、忌憚のない御意見、御提言をいただけるようお願い申し上げ、開会に当たっての挨拶としたい。

#### (2) 議 事

資料1「栃木県重点戦略『新とちぎ元気プラン』」、資料2「栃木県重点戦略『新とちぎ元気プラン（仮称）』第2次素案に対するパブリック・コメントの実施結果について」について、事務局から説明し意見交換を行った。

## 【発言要旨】

[会長]

ただいま説明のあった最終案について御質問があればお願いしたい。最終版のカラー版（見本）が用意されているので、参考に御覧いただきたいと思う。

まず、私から、成果指標は現プランに比べて大分絞り込んだと思うが、その考え方や比較など、お伺いしたい。

[総合政策部長]

成果指標については、現在の元気プランでは 50 施策、施策ごとに 3 つあるので全部で 150 あった。今回は 41 となり、数的にはかなり減っている。なお、41 のうち 12 は、元気プランと同じ成果指標を使っている。また、今回はできるだけ客観的指標をとということで、全国の順位、全国と比較できる指標を設定し、41 のうち全国比較ができる指標が 23、うち具体的に全国順位で示せるものが 21 あり、約半数は全国的な順位をメルクマールに毎年進行管理できるものと考えている。

[会長]

今回の「新とちぎ元気プラン」は、重点戦略ということで取組の方向や重点的な取組を記載しているので、プランの基本的な考え方を踏まえ、実際に施策を展開するに当たってのアドバイスや御提言でも結構である。また、この「新とちぎ元気プラン」を推進していくためには、知事のあいさつにもあったように協働の取組が重要になってくる。今後、当懇談会の委員の皆様には、それぞれ所属する団体等の様々な活動を通じ、プランの浸透が図られるよう御尽力いただきたいと考えるので、プランの推進や広報活動についてのお考え、アドバイス、あるいは当懇談会を通じて得た感想等でも結構なので、自由に意見交換をお願いしたい。

[委員]

パブリック・コメントの県の考え方の中で、「レイアウト及び写真の説明について工夫をする」とあるが、最終案では、写真に説明が付いていないところが多々ある。第 2 次素案では説明が付いているのに今回なくなっているところもある。例えば、第 2 次素案 69 ページには「自転車を手軽に利用できるレンタサイクル(宇都宮市)」とあるが、最終案の同じ写真には説明がない。何か理由があったのか。それ以外にも何箇所か、説明があればわかりやすいという写真があると思う。

[総合政策部長]

写真については、第 2 次素案でお示ししたものと最終案で入れ替えをしているものがあり、その点については御了承いただきたい。御指摘の部分については、確かに同じ写真を使っているが、レイアウトの関係で、この写真も含め、各プロジェクトの左上の写真は、説明を加えない形で統一したところである。

[委員]

多分デザインの関係だろうと想像したが、例えば県内の写真だろうと思っても、私はどこなのかわからないものが幾つかあるので、説明を入れていただきたいと思った。

[委員]

33 ページまでの上の部分の写真については非常に良い説明が書いてある。38 ページからの写真については、従来この手のものはイメージ写真として使うものだが、少し発想を変え、例えば合唱をしている写真、お年寄りが子どもに大工仕事を教えている写真は、県内の中学校で合唱コンクールをやっているところが何校ある、お年寄りが子どもにこういう作業を教えているところが県内でどの程度ある、という説明があった方が、文章や写真に対する親近感がわくと思う。逆に、そういう説明ができず、単にイメージとして載せるような写真は載せるべきではない。

47 ページの「スポーツを通じた人づくり」も、地域スポーツクラブ的な写真をここに載せて、県内ではどのくらいの地域スポーツクラブができているとか、絵解きをした方が良い。

48 ページの「重点戦略」の親子 3 人の写真も、もっと違った、この文章全体を象徴する写真で絵解きを書くなど……。イメージ写真より身近に感じるのではないか。

[委員]

全体的にスリム化されてわかりやすく、写真等もかなり使って見やすいので、私は、これで十分理解できるのではないかと思う。問題は、これがいかに活用されるか、そちらの方がこれからの大事な課題である。

[委員]

懇談会の全体会や部会で十分に議論が尽くされたと思う。とても丁寧につくられたプランである。先ほどの知事のことばどおり「元気度日本一」の日本一がこれからたくさん出てくるように、自信を持って進めていただきたい。また、「新とちぎ元気プラン」をできるだけ多くの人に広めていくことが大切だと思う。

[委員]

42 ページの成果指標「新規学卒者の就職内定率」について、内定率はあくまで内定であり、最終的に卒業者がどれくらい就職したかという「就職率」というデータのとり方は不可能か。その方が確定した数値になるのではないか。

[総合政策部長]

内定率については、栃木労働局が管内の大学を対象に、各学校の把握している内定状況を取りまとめたものである。実際の就職率について、オフィシャルな全国共通のデータがあるかどうかについては、捕捉していない。

[産業労働観光部長]

労働局で内定率を集計したもの以外のデータはない。各年度の 6 月末で最終の数字を集計するが、

それがここに掲載されている数値である。

[委員]

非常に立派なものができる。平成 21 年からの策定経過も記載されているが、これだけ労力を使って、皆さんから非常にいろいろな意見が出たと感じている。今後、これに沿って各部局別に具体的な計画が相当策定されるだろうと思っている。議会は議会でそれによって議論ができ、執行部は執行部でまたそのことをきちんとやってくれるだろう。しかし、この進捗状況について、執行部や議会ではない方々から、議会なり執行部なりに意見を言っていただける機会、意見発信をぜひお願いしたい。私どもは「未来開拓プログラム」が常に頭から離れない。財政的な問題で栃木県をどうするかという一方で、この「新とちぎ元気プラン」を進めることになるので、極めて大きな意見が出て当たり前だと思っている。1年ごととは言わないが、ぜひ皆さんからの意見を反映して欲しい。

[会長]

元気フォーラム等も含めて、今後の広聴・広報体制や行政評価についての御質問だと思う。現時点の方針等を伺いたい。

[総合政策部長]

広報に関しては、とちぎ元気フォーラムにおける知事と県民の皆様とのやり取りなどもあるが、その他の媒体等も使って、様々な形で積極的に取り組み、皆様の御意見を聴取して参りたい。

また、マネジメントについては、現在検討しているところだが、現計画でも、マネジメント・システムにより、毎年度、進捗状況をチェックし、現状評価と課題等について公表している。新プランについても、重点的取組等に係る推進策、あるいは全体的なプロジェクトの進捗について、何らかの形で毎年度公表していきたいと考えている。

[委員]

全体的に大変良くできている計画だ。執行部も議会も、また、あらゆる分野の栃木県の皆さんが、この指標に沿ってこれから頑張っていくのだという思いにさせられる計画である。

「元気度日本一」といいながら、あるところではトップ 10 を目指す、あるところではトップ 5 を目指す、積極果敢に攻めながら何か奥ゆかしさを持ってやっていく。堅実さとともに、福田知事のキャラクターが出ている素晴らしい計画だと思う。頑張っていきましょう。

[委員]

本当に丁寧につくり込まれている。栃木県らしく着実に前進、成長していこうということが良くわかる。各市町も含め、しっかりと職員に目を通してもらえるようなものになったと思う。78 ページ以降、栃木県における行財政改革にも触れられ、栃木県では、議会もそうだが、他県に先駆け、決して引けをとらないような改革を行っているので、もっと PR したいくらいである。

[委員]

現在、「地域医療再生計画」というものが進んでいるが、この計画と今回のプランはリンクするの

か。県ではそういうことも含めて考えているのか。

また、この計画は非常に控え目な目標だと思っている。なぜ控え目なのか、いろいろ数字の問題もあるだろうが…。県では、これを実行していくのに十分な財源の確保はできているのだろうか。この2点について伺いたい。

[会長]

「新とちぎ元気プラン」と分野別計画、あるいは「未来開拓プログラム」や行革大綱との関係については、県民の方にもわかりやすく説明していかなければならないと思う。その辺も含めて伺えればと思う。

[総合政策部長]

「地域医療再生計画」と「新とちぎ元気プラン」との関係について、私の認識としては、直接的には関係がないと思っている。もちろんプランに掲げている「地域で安心できる医療の確保」等、医療分野における具体的取組としては、むしろ先行して対応する部分もあるかと思うが、このプラン自身の記載そのものとは直接的に連関はないと考えている。

また、財源の問題についてであるが、選択と集中をする中で、従来の総花的なものから「新とちぎ元気プラン」では重点戦略を絞り込んでいる。したがって、今後、各年度の予算編成に当たっては、基本的には、プランの取組を重点化していくというスタンスになろうかと思う。また、トータル的な予算の枠についても、年次ごとの財源の問題もあるが、今申し上げたスタンスで臨んでいくことになると思う。

また、分野別計画との関係については、これまでは、総合計画の部門別計画という位置付けであったが、今回、施策を重点化した関係から、例えば新教育振興ビジョンや次期農業振興計画等の計画は、部門別というよりは、「新とちぎ元気プラン」と一体となって、上下ではなく並列的にプランが目指すところを通底して進めていくことになる。

行政改革との関係についても、現在、「とちぎ行革プラン」の策定を進めているが、「新とちぎ元気プラン」のいわば土台を支える部分になろうかと思う。こちらについても整合を図りながら進めていくことになると考えている。

[委員]

「新とちぎ元気プラン」は、5か年の計画だが、これに対応する5か年の中期的な財政計画、財源見通しと歳出のトータルの見通しはたてているのか。

[総合政策部長]

これまでの総合計画では、ある程度の中期財政収支見通しも併記していたが、それは総合的な計画ゆえにという部分だったかと思う。今回のプランは、重点化ということで、この部分についての歳出見通しと、それを裏付ける例えば歳入との関係のような意味での収支見通しは立てていない。

県全体での中期的な5か年単位の財政収支見通しに関しては、毎年度の予算編成時ごとに、財政当

局で「未来開拓プログラム」と合わせる形で作成し、公表している。

[委員]

2011年から2015年のプランということで、その5か年に対応する中期見通しがあるのか確認したい。

[総合政策部長]

今回の計画はこれまでの計画と異なり、基本的には「重点的取組」とその「主な取組」を示している。したがって、これに対応する個々の事業は柔軟に対応していくということで、この事業で5年間幾らかかるだろうという積み上げはしていない。その意味で5か年のそれを裏付ける財源との関係については出していないということである。

[委員]

「栃木県民の歯及び口腔の健康推進条例」（いわゆる歯科保健推進条例）が全国で13番目に制定された。「新とちぎ元気プラン」ともマッチしている。県民の口の中の健康を保つことによって、体全体の健康を保持・増進することができるということがわかってきている。まさしく「元気度日本一」を目指すための条例の一つとなったと、大変喜んでいる。ぜひこの条例を活かし、今後5年間このプランが成功するように願っている。

[委員]

選択と集中でプロジェクトを構築しているので、プロジェクトに関しては良くできているという印象だ。ただ、マクロで見ると、本県は今後5年間何で稼いで、どんなものに金を分配するかという点がわかりにくい。特に、県内を活性化することは重要だが、域外からどう稼ぐか、域内をどう活性化するかということが余り述べられていない。最後に補足資料として、大きな項目で、今後5年間でこの数値はこのように変わる、とあるとわかりやすいのではないか。

それから、「時代の潮流ととちぎの課題」の記述については、どんな問題意識で今後とらえていくのか。その問題を解決するようなことが、プロジェクトでなくても、どこかで触れられると良いと思う。

その点に関して3つ申し上げたい。1つ目は、生産年齢人口の記述が、年少者と高齢者の人口比率がこのように変わる、ということに重点が置かれている。福祉問題では、これは非常に重要だが、我々経済界から見ると、生産年齢人口が急に減ってしまうということが、これは消費の担い手でもあるので非常に大きな問題だ。パーセンテージだけでとらえられていて、実質として減っていくという実感を伴わない記述なのが気になる。

2つ目は、「地域経済と産業構造の変化」について、従来の殻に閉じこもったような思い込みの記述が多い気がする。今、TPPの参加問題で、農協の立場、産業界の立場がいろいろ議論されている。これの結論を出すのは地方に行けば行くほど難しい。この議論の中で、農業は衰退する弱い産業なのだというイメージ（思い込み）があるが、いろいろなものを見るとそうではない。日本の農業は生産

高から見れば世界第5位、先進国ではアメリカに次いで第2位、輸入に関しても、先進5か国では第4位。農業GDPも生産性が非常に高い。ここでの書き方は、そういう思い込みを助長するような書き方になっていないか。

3つ目に、「労働者間の所得格差の拡大が問題」と書いてあるが、教育格差の問題がどこにも触れていない。これは、今後大きな問題になってくるのではないか。一部の研究では、県民所得の高い都道府県ほど大学入試センター試験の成績が良く、逆に県民所得の低い都道府県ほど低いという研究も発表されている。本県の県民所得は一般的に高い方だが、法人所得が高いので、個人の雇用者所得はぐっと順位が下がる。ここで取り上げる問題ではないかもしれないが、どこかで触れておいた方が良いのではないかと思う。

[委員]

「地域社会・コミュニティの変化」の中で、「三世同居率も高い状況にあり、世代間交流による・・・」と書いてあり、三世同居率が高いから世代間交流が活発に行われる身近なつながりが残っているという意味合いの言葉になっている。確かに今、ボランティアが多く存在してシェアしてもらっているが、この言葉は少し気になる。この部分を削除できるのであれば検討して欲しい。

もう一つ、パブリック・コメントで「学校における『心の教育』の充実が必要」とあるが、私は、心の教育は家庭教育から生まれてくるものではないかと思っている。家庭教育は人任せ、学校任せ、幼稚園任せ、他人任せのような状況で、親は働けば良い、お金を稼げば良いという風潮になっている。心の教育は、いじめがなぜ起きるかを考えれば、やはり家庭教育が主体にならなくてははいけない。今、栃木県で「親学習プログラム」をつくってやっているが、きちんとした親学をして、親はこうあるべきだということを広めてもらえれば、こういう問題も少なくなってくると考えている。

[委員]

今回の計画で特徴的なのは、成果指標が明確に示されていることだ。その上で、具体的な各施策に関しては、重点的な取組が記載されている。今後、個別施策に関しては、執行部や我々議会もいろいろ詰めていくことになると思う。

成果指標については、外的な要因、例えば農業産出額一つを取ってみても、TPPがあっただけで産出額が落ちるといったことが考えられる。この辺も含め、5年間でやるものだからある程度予想してと・・・。数値目標に関して、本当に大丈夫かという思いがないわけではない。「未来開拓プログラム」下でもあり、高い理想はわかるが、これを達成するのは厳しい部分もあるかと思う。

もう一点、広報について、これだけ良いものをつくったのだから、さらに工夫してプランを広報するとともに、個別の施策が出ていないので、特に成果に関しては、今まで以上に県民の皆さんにきちんと広報していかなければならないと思う。

[会長]

本日は貴重な御意見をいただいた。御指摘のあった部分については、私と茅野会長代理に懇談会と

しての意見の取りまとめを一任いただくということによろしいか。

(了解)

[会長]

茅野会長代理からも一言お願いしたい。

[会長代理]

今回のコンパクトなプランを実り豊かな結果に結びつけていけるようにと考えている。「元気度 日本一」ということで、そのためには私も健康で元気であることが「元気度 日本一 栃木県」に貢献できることだと思っている。その意味で、個人的にも、また組織としても元気で健康で、周りと一緒に輪を広げていければと思う。

[会長]

私からも一言挨拶を申し上げる。

本年は、北関東自動車道の開通や東北新幹線の青森延伸など、いろいろな面で交通機関が便利になり、今後、本県の立地条件も大きく変わっていくと思う。このため、これからの5年間を考えると、栃木県としてのまとまりや県民意識が低くなってしまわないかという懸念もないわけではない。かといって、すぐに道州制になるわけでもない。だからこそ、今後、私たち一人ひとりの誇りやアイデンティティ、企業や組織の強み、あるいは競争力は何かと問われたときに、栃木県という固有の歴史・風土・文化・産業そして人に支えられた「県民」であるということに立ち戻っていくことになると思う。つまり、栃木県を改めて見つめ直したり、考え直したりする必要性が高まってくるのではないかなと思う。

そのような際に、ぜひ「新とちぎ元気プラン」を道しるべとしてひもとき、とちぎの姿を再認識し、持続可能性の高い、真の豊かさを維持、向上させていくために、県民一人ひとりがなすべきことをこのプランの中から編み出してほしい。このプランは行政が一方的に進めるというのではなく、私たち県民一人ひとりの行動指針でもあると考えている。

懇談会においては、部会も含め7回にわたり、委員や県の皆様方が一堂に会して、長時間かけて熱心に御討議をいただき、いろいろな知恵やアイデアを出していただいた。こうした私たち委員の思いを踏まえ、県執行部、議会におかれては、ぜひ「新とちぎ元気プラン」をもとに、多くの分野別の具体的な計画の策定やその実施に御尽力をいただきたい。また、委員の皆様には、各界において県民協働の推進役として引き続き御協力をお願いしたい。

### (3) 知事あいさつ

ただ今は、栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」について、委員の皆様方から熱心な御審議をいただき、お礼を申し上げます。

また、委員の皆様方には、当懇談会を通じ、数多くの貴重な御意見や御提言をいただき、改めて厚

く御礼を申し上げます。

今後は、「新とちぎ元気プラン」に基づき、200万県民の力を結集し、誰もが豊かさを実感できるとちぎづくりを推進することで、次々に元気を生み出し、発信していく「元気度日本一の栃木県」を築いて参りたい。

先ほどの話にもあったが、指標の良い点はますます伸ばし、悪いところは底上げをしていく、そしてトータルとして「元気度日本一」を目指していくものであり、それに向かって最大限の努力をして参りたいと考えている。

委員の皆様には、引き続きの御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます、お礼の言葉としたい。

以上